

OPAM開館10周年記念

LINKS

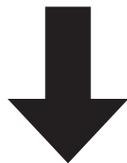
2025年4月26日 | 土 | — 6月22日 | 日 | 大分県立美術館

休展日=5月22日 | 木 | 開館時間=10:00-19:00 | 金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで) 1階展示室A | 3階コレクション展示室

主催=公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館 | 共催=大分合同新聞社、TOSテレビ大分 | 協賛=大分銀行、株式会社フォレストホールディングス、株式会社ダイプロ、平倉建設株式会社
後援=大分県、大分県教育委員会、NPO法人大分県芸術振、西日本新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、NHK大分放送局、エフエム大分、J:COM 大分ケーブルテレコム、大分経済新聞



Instagram



大分と、

世界と。



↑ 5月23日に登場!

LINKS

大分県立美術館は2025年4月に開館10周年を迎えます。このたび当館のコンセプトである「出会いと五感のミュージアム」にちなみ、人と人、人と作品との「出会い」をテーマとした企画展を開催します。作家同士の交流や、作家と作品との「出会い」が生んだ近代以降の美術の軌跡を、名品や新発見資料とともにたどります。大分にはじまり、視点を日本さらには世界へと広げ、「出会い」が生んだいくつもの感性の「つながり」——“LINKS”をお楽しみください。

①-⑦
© 2025 -
Succession Pablo Picasso -
BCF (JAPAN)



⑤ パブロ・ピカソ《魚》A.R.113 1950年6月29日
ヨックモックミュージアム

⑥ パブロ・ピカソ《鴨型花器：女性の頭部》A.R.117 1951年
ヨックモックミュージアム

この春は
ピカソに夢中



④ パブロ・ピカソ《牧羊の面》1947年 神奈川県立近代美術館

戦後、
日本へやってきた
ピカソの陶器



① パブロ・ピカソ《黄色い背景の女》1937年 東京ステーションギャラリー



「ピカソの新しい発見は
自分の目を
改造してくれた」
佐藤敬



③

日本人が
パリを見た
ピカソ



② パブロ・ピカソ《鳥籠》1925年 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館



佐藤敬《水災に就いて》1939年 大分市美術館

ピカソが
大分と
リンクする!?

⑦
パブロ・ピカソ(原画)/
ジャクリーヌ・ドラ・ボーム=デュルバック(織)
《ゲレニカ(タピスリ)》
1983年(原画1937年)
群馬県立近代美術館



↑ 5月23日に登場!

料金＝一般1,400(1,200円)/大学・高校生1,200(1,000円)・()内は前売および有料入場20名以上の団体料金。|●中学生以下は無料。|●大分県芸術文化友の会 びび、KOTOBUKI 無料(同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金。|●身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料。|●学生の方は入場の際、学生証をご提示ください。

チケット販売場所[前売券・当日券] ●大分県立美術館 | ●iichiko 総合文化センター1Fインフォメーション | ●大分合同新聞社本社・プレスセンター | ●TOSハウジングメッセ | ●トキハ会館3F プレイガイド | ●エトウ南海堂 | ●NPO法人大分県芸術 | ●大分県職員消費生活協同組合 | ●チケットびあ(コード:687-157) | ●ローソンチケット(L84808)

大分県立美術館

〒870-0036 大分市寿町2番1号 | TEL: 097-533-4500 | FAX: 097-533-4567

〔関連イベント〕

全イベントは参加費無料(要展覧会観覧券)

記念講演会1「日本画の変—日展三山とその時代」 | 講師 野地耕一郎[泉屋博古館東京館長]
日時 2025年5月17日[土]14:00-15:30 | 場所 2階 研修室 | 定員 80名

記念講演会2「ピカソの《ゲルニカ》—ルーツと生成」 | 講師 大高保二郎[早稲田大学名誉教授]
日時 2025年6月14日[土]14:00-15:30 | 場所 2階 研修室 | 定員 80名

スライドトーク「OPAMコレクションの楽しみ方」 | 講師 加藤康彦[元当館副館長]
日時 2025年5月31日[土]14:00-15:30 | 場所 2階 研修室 | 定員 80名

ギャラリートーク | 日本画と洋画、それぞれ別日程で担当学芸員が解説を行います。

申込方法

- 当館ホームページの申込フォームよりお申し込みください。
- 申込受付は先着順となります。
- 定員一杯になり次第、申込受付を終了します。
- 都合により変更となることがございます。

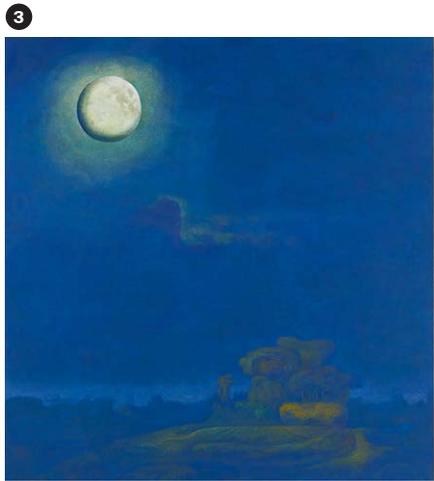
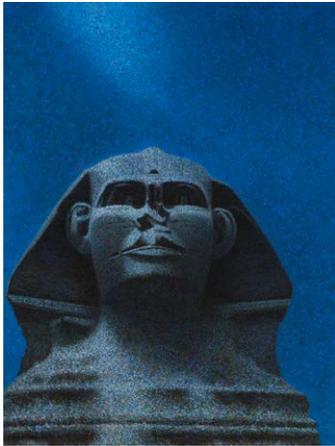
10 PAM
10th Anniversary



〔日本画編〕-----日時 2025年4月27日[日]、5月1日[木]、5月3日[土・祝]、5月5日[月・祝]、5月24日[土] 各日14:00-15:00 | 場所 3階 コレクション展示室

〔洋画編〕-----日時 2025年4月29日[火・祝]、5月2日[金]、5月4日[日・祝]、5月6日[火・振休]、6月7日[土] 各日14:00-15:00 | 場所 1階 展示室A

1
日本画の最高峰「日展三山」
杉山、東山、高山の
珠玉の三点が揃うのは前期のみ!



永遠を
みつめて

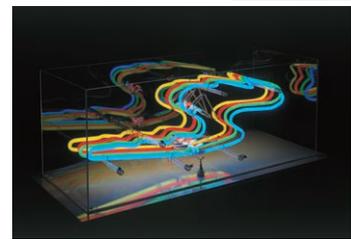
一瞬を
みつめて



かわらない
ことこの
たいせつさ



昨年の回顧展で
ご好評いただいた
福田平八郎。
今回もたっぷり
おみせします。



「ネオダダイスム・
オルガナイザリズム」の
ルーツとなった
「新世紀群」や
「キムラヤ」にも注目!

かわりゆく
世界と
ともに

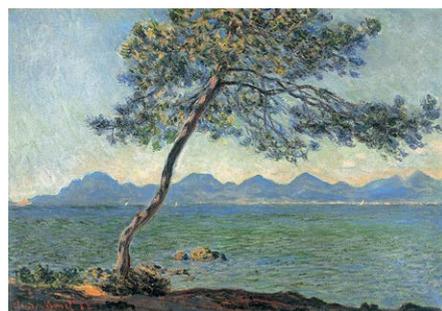
明治、大正、昭和
かわりゆく世界と
向き合った
美術家たちの軌跡

黒田清輝らとともにパリで学んだ
藤雅三(大分県出身)の国内に現存する
唯一の油彩画を紹介します。



世界に
あこがれた
日本

浮世絵を好んだモネが
南仏で描いた連作の一つ。



日本に
あこがれた
世界

① 杉山學《穹》1964年 東京国立近代美術館 通期展示 ② 東山魁夷《冬華》1964年 東京国立近代美術館 通期展示 ③ 高山辰雄《穹》1964年 東京国立近代美術館 前期[4/26-5/21]のみ ④ 東郷青児《バラソルさせる女》1916年 SOMPO美術館(一般財団法人陽山美術館より寄託) ⑤ 古賀春江《窓外の化粧》1930年 神奈川県立近代美術館 ⑥ 松本竣介《立てる像》1942年 神奈川県立近代美術館 ⑦ 福田平八郎《雲》1950年 大分県立美術館 通期展示 ⑧ 吉村益信《Neon Cloud-Neon ネオン雲》1966年 大分県立美術館 ⑨ ウィリアム・クライン《ボクシング・ペインティングを語る篠原》1961年 大分市美術館 ©William Klein Estate ⑩ 藤雅三《フランス風景》1887年頃 東京国立博物館 Image: TNM Image Archives ⑪ クロード・モネ《アンティーブ岬》1888年 愛媛県美術館